

中国海警船が比巡視船に故意に衝突

中比の領土紛争は新たな段階にエスカレートする恐れ

樋口 譲次

○中国の海警船、フィリピンの巡視船に故意に衝突

フィリピン（比／比国）政府は8月19日、同国沿岸警備隊の巡視船2隻（BRP バガカイと BRP ケープ・エンガノ）が、エスコダ礁（Escoda Shoal）の南東約20海里の海上で、中国海警局の艦船（以下、海警船）2隻（CCGV-3104 と CCGV-21551）に衝突されたと公表した。

比沿岸警備隊が公開した画像には、バガカイに幅約1メートルの穴が開いている様子が写っている。また、ケープ・エンガノには「軽微な構造的損傷」があり、右舷と左舷の両方から衝突を受け、船体にへこみと幅1.5メートルの穴が開いている。

比国家安全保障会議のジョナサン・マラヤ次官は、この争いは「中国海警局の船舶による違法かつ攻撃的な行動」によるものだとし、衝突された2隻の巡視船は南山島（Nanshan Islands）とフラット島（Flat Islands）のフィリピン基地への補給任務を遂行しており、事件後も任務を継続すると述べた。

事件が起きたエスコダ礁は、比国の排他的経済水域（EEZ）内に存在する。

他方、中国は、一方的に南シナ海に9断線を引き、国際裁判所が国連海洋法条約（UNCLOS）に基づき中国の領有権を全面的に否定する裁定を行った後も、それを無視して同海のほぼ全域を自国領であると頑なに主張している。

それを論拠に、中国海警局は19日、サビナ礁（Sabina Shoal）付近で比沿岸警備隊の巡視船2隻が「不法侵入」し、海警船に衝突したと発表した。中国側が複数回にわたって警告したが、比側が「無視」した結果、衝突が起きたという。

加えて、海警局報道官は談話で、「権益侵害の挑発行為を直ちに止めなければ、それにより引き起こされる一切の結果を比側が負うことになる」と警告した。

比巡視船に穴が開く被害が出ていることや、中国の9断線の不法な主張、海警局報道官の談話を重ね合わせると、中国海警船が比巡視船に故意に衝突したことは明らかである。

中比両国は南シナ海の領有権を巡って対立しており、今回の中国による新たな攻撃的行動により、中比の領土紛争は一段と緊張が高まる恐れがある。

○中比の領土紛争は新たな段階にエスカレートする恐れ

今年に入り、中比両国による南シナ海の領有権を巡る対立が激化している。

比国は、同国の EEZ 内で実効支配するセカンド・トーマス礁（タガログ語：アユンギン礁）に、揚陸艦（シエラマドレ号）を意図的に座礁させた軍事拠点を確保している。

そこに物資を運んでいた補給船や巡視船に対し、中国海警船などが衝突や放水、レーザー照射などの攻撃的・威圧的な行動を繰り返してきた。

そして、3月23日には、中国海警船が比の補給船に放水砲を発射し、乗組員3人を負傷させ、補給船に損傷を与えるなど深刻な事件に発展した。この事件は、比軍人が負傷した最初の事件ともなった。

次いで6月17日、中国海警船は、セカンド・トーマス礁付近で、フィリピン軍の拠点に向かう補給船に乗り込み検査を行う暴挙に出た。

中国は、国内法を根拠に「臨検」を行ったと見られ、その際、海警船が比国の補給船に体当たりし、小型ボートや銃器を押収するとともに同軍の複数の乗組員を一時拘束した。

乗組員たちはその日のうちに解放されたというが、比関係者は「乗組員のうち1人が指を切断する重傷を負った」と明らかにした。

このような事態の悪化を受け、比外務省は7月21日、南シナ海のアユンギン礁（セカンド・トーマス礁）にある同国軍拠点への補給活動を巡り、中国と仮協定に合意したと発表した。

外務省は仮協定の詳しい内容には言及しなかったが、「両国は、南シナ海における状況を沈静化させるとともに、対話と協議を通じて相違を克服し、同海域を巡る相手側の立場を損なわないことで合意する必要性を認識し続ける」とした。

その矢先に起こったのが前述した最新の事件である。

中国は、国際法や国家間の約束を守る意思など毛頭ないことは明らかで、最新の事件の2週間前には、中国空軍の戦闘機がスカボロー礁上空で哨戒任務に当たっていた比空軍機の前方に照明弾を発射した。

また、南シナ海では比国と米国、日本、オーストラリア、カナダなどのパートナーとの間で共同パトロールが行われているが、これに対しても、中国の軍艦が執拗に尾行しているのが確認されている。

このように、中国の攻撃性の増大を背景に、南シナ海における中比の領有権を巡る対立は次第に激化する様相を呈している。「南シナ海波高し」であり、今後、両国の領土紛争は新たな段階にエスカレートする恐れを含みつつ推移すると見られる。

○日米豪比の協力を強化せよ

足元、中国の違法かつ攻撃的な行動に、比国一国のみで対処するには荷が重すぎよう。

そのため、米国は、米比相互防衛条約（1951年締結）に基づき、1998年に「訪問米軍地位協定（VFA）」を取極め、2014年に「防衛協力強化に関する協定（EDCA）」に署名した。

EDCAは、フィリピン軍の能力向上、災害救援などにおける協力強化、米軍のローテーション展開、米国によるフィリピン国内拠点の整備、装備品・物資などの事前配置を可能とするものである。（傍線は筆者）

これによって、比国において米軍がローテーション展開できる駐屯地・基地は、併せて9か所になった。

9か所の駐屯地・基地は、北部のルソン島に陸軍駐屯地2か所（うち、1か所は大型飛行場あり）、海軍基地2か所、空軍基地1か所、南部のマクタン島とミンダナオ島にそれぞれ空軍基地1か所、南シナ海に面したパラワン島に空軍基地1か所、バラバク島に海軍基地1か所の配置になっている。また、米国は、滑走路の拡張や訓練施設の整備などに米国予算を充当している。

これらの配置は、明らかに中国軍の行動への対処を考えたものと見られ、特に、米海軍にとってバシー・ルソン海峡や南シナ海に向けた作戦拠点を想定していることが容易に察せられる。

また、米国は、比国に防衛装備品を供与するとともに、米比合同軍事演習「バリカタン」などを通じて、比軍の能力向上や相互運用性など共同対処力の強化に注力している。

日本は、比国との間で、首脳会談や「2+2」などのハイレベル交流のほか、防衛装備品の移転、南シナ海の共同パトロールや双方の共同訓練・演習参加などの軍種間交流を拡大している。

2024年4月、岸田文雄内閣総理大臣は、米国において日米比首脳会談を行い、防衛当局間協議や共同訓練などを通じた安全保障・防衛協力を引き続き強化していくことで一致した。

防衛装備品・技術移転協定（2016年発効）に基づき、2023年10月に1基目、2024年3月に2基目の警戒管制レーダーが比空軍に納入された。併せて、巡視船供与を含む海洋安全保障能力向上にかかる協力も進めている。

また、南シナ海における日米豪比による海上協同活動（共同パトロール）を行うとともに、自衛隊が米比合同軍事演習「バリカタン」に参加したように、日比両軍が相互に共同訓練・演習に参加するなど、共同対処能力と相互運用性の向上を目指している。

オーストラリアは、比国との間に「協力的防衛活動に関する了解覚書(MOU)」(1995年)、「豪比相互訪問軍隊地位協定(SOVFA)」(2012年)および「豪比相互補給支援協定(MLSA)」(2021年)を締結し、それに基づき比国との防衛協力を強化している。

比国は、台湾とともに、南シナ海やバシー・ルソン海峡といった重要なシーレーンに面している。また、接近阻止・領域拒否(A2/AD)戦略の下、中国が展開する覇権的拡大を阻止して「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」を確保する上で、日米豪にとって、その戦略的重要性は計り知れないものがある。

そのため、日米豪を中心に、比国や台湾など第1列島線国の防衛能力強化に協力し、それらを連結し、切れ目のない強靱な「島嶼国統合防衛構想」を推進することの意味は大きい。

同時に、我が国は、南西諸島を焦点としたわが国の防衛体制を強化するとともに、中国の比領土に対する侵略的アプローチを真剣に研究し、中国の尖閣諸島侵略に一分の隙や口実も与えないよう、さらなる防衛警備の強化が望まれる。